

高校卒業後、農業土木を専門とする建設コンサルタントに入社し 27 年間勤務。現在縁あって生まれ故郷のニセコ町で主に国営緊急農地再編整備事業に関わる仕事を担当しております。

趣味の話になりますが、40 歳を過ぎてから年に 3 回前後ですがマラソン大会に参加しております。中でもウルトラマラソンでは制限時間内に 100km を走る能力が求められます。初めての挑戦はフルマラソンを始めた翌年で、1 月に申込み半年後の 6 月に本番でした。フルマラソンもそうですが、ウルトラマラソンを走り切るためには自分自身をセルフコントロールすることが必要です。規則正しい生活、バランスの取れた食事、練習時間の確保、そして十分な休息などです。1 年は 365 日、1 日は 24 時間である限りいくら努力をしようとしても費やせる時間は有限です。しかし、努力を続けることで可能性は広がると信じております。(歳にはかてませんが……)そして何かを続けていくためには心身共に健康であることが望まれます。これらは仕事にも共通することだと考えます。働き方改革が求められておりますが TPP11、日 EUEPA、日米貿易協定や国土強靱化など、農業土木技術者の役割(仕事量)は増しております。考え方、発想を変えていかなければ真の改革は難しいと感じます。

技術は日進月歩で進んでおります。技術士資格を取得しても当然のことながら突然技術力が向上するわけではありません。これからもマイペースで、そして時々給水(お酒含む?)や休みを取りながら技術者として日々研鑽を続け、遥か彼方にあるゴールを目指して走りつづけて行きたいと思っております。

石山 智 (いしやま さとし)

- 農業部門(農業土木)
- 総合技術監理部門

勤務先

ニセコ町役場



→次号は、白木 剛さん(農業部門)

私は大学進学までを札幌で過ごし、大学進学を機に帯広に移り住み、その後、現在所属している会社に就職して今に至っています。

主な仕事は水質汚濁や土壌汚染などの環境調査・測定分析ですが、そのほかにも動植物調査や河川、海域、農業、エネルギー関連の調査・解析、さらには子供向けの環境教育の企画・運営(たまに先生役)など、自分の専門がよくわからなくなるとなると「何でも屋」となっています。決して何でも屋を自負しているわけではないのですが、よくわからない依頼や相談ごとが自然と自分のところに回ってくるようになってしまいました。

このような立ち位置であるため様々な依頼や問い合わせが来ますが、どんな時でも一番気を付けているのは「目的を見失わないこと」です。これさえ出来ていれば、大体のことはできると思っています。もちろん、自分の守備範囲外のことは専門技術者の協力も必要ですが。

自分も若いころは依頼者や上司に言われたことをこなしていましたが、言われたことをやったにもかかわらず苦情を受けることが何度ありました。「これを調査すればこういうことがわかると思ったのに…」、「これを調べたところで何の解決にもならなかった…」などなど。いずれも、「こういうことが知りたい」、「こういうことをしたい」ということが最初からわかっていたら、より適切な提案ができたと思われ、反省し、その後は、何のためにこれをやるのか明確にすることを心掛け、後進への指導の際にも、技術的なことより、「目的は何?」ということをお願いしております。技術士の皆様には今更のことと思いますが、後進の指導という大切な仕事の一助となれば幸いです。

佐藤 智行 (さとう ともゆき)

- 建設部門(建設環境)
- 環境部門(環境測定)

勤務先

株式会社ズコーシャ



→次号は、神谷裕幸さん(環境部門)